

みえ高校生県議会 参加校及び質問項目一覧 (令和8年8月20日開催)

学校名 質問項目	質問概要	答弁の概要	答弁者
名張高等学校 「農林水産業 の担い手不足 と若者参加の 促進」	平成22年と令和2年を比較すると、県では農家数が64%減少し、担い手不足が進んでいる。スマート農業の活用が、担い手不足解消や若者の参入促進につながると考え、県内事業者と話をつけたところ、スマート農業に触れることで農業のイメージが変わり、新規参入が見込めると仰っていた。<u>県は、担い手不足解消と若者の参入促進のため、スマート農業をどのように活用し、促進するのか。</u> 【再質問】 教育の観点から担い手不足の課題解決に取り組んではどうか。現在、小学校を中心に農業体験が実施されており、私たちもこの体験を通じて、農業の楽しさや面白さ、達成感を味わった。この取組を拡充し、小中高生がスマート農業に触れる機会を作ることが有効と考える。スマート農業による効率的な農業や収益向上の可能性等のプラスの面を知ること、若者が農業を将来の選択肢に入れるのではないかと。具体的には、小学校の社会見学や中学校の職場体験でスマート農業を実践する企業を訪問し、高校ではインターンシップでより実践的な体験をしてもらうことが考えられる。 <u>農林水産と教育が連携し、小中高生がスマート農業に触れる機会を確保・充実させることについて伺いたい。</u>	県では、スマート農業技術の推進に向け、各機関が連携しながら、研究開発から現場実装、人材育成までを一体的に進めている。例えば、農業研究所では現場でのスマート農業技術の実証実験や改良に向けた研究を進めており、農業改良普及センターでは、効果が確認された技術の横展開を促進するとともに、研修会を開催し、スマート農業技術を使いこなせる人材の育成に取り組んでいる。加えて、スマート農業の導入・活用に向けた基盤整備にも取り組んでいる。今後も、スマート農業技術の活用を図りつつ、生産基盤の整備や担い手確保、育成などの取組を総合的に進める予定である。 県議会としても、スマート農業の推進など、さまざまな取組により、農業の担い手確保や若者の参加が進むよう、引き続きしっかり議論していく。 【再質問への答弁】 県では、若者の就農意欲促進、県内での就業促進を目指し、県内のスマート農業を実践する先進農業経営者と農業高校が連携し、現地視察研修を実施するなど、農業のやりがいや将来性を若者に伝える取組を進めている。いただいたご提案も参考にし、農林水産部と教育委員会がより連携を深め、若者がスマート農業に触れる機会が充実するよう、県議会としてもしっかりと議論していく。	環境生活農林水産常任委員長

学校名 質問項目	質問概要	答弁の概要	答弁者
皇學館 高等学校 「農業従事者の減少対策と米の消費量アップ作戦」	昨年の米価格高騰の社会問題を受けて、米農家の方に現場の課題の聴き取りを行ったところ、ビジネスとして儲かりにくいことと地域の過疎化が米農家の後継者不足の本質的な原因であると伺った。 <u>県として、農業従事者数減少への対策や一人あたりの米の消費量増加の方策について、どのように検討しているかお聞きしたい。</u> 本校の高校生と教員を対象に米に関するアンケートを実施したところ、1日3食米を食べるのは高校生が51%、教員が37%であり、米のイメージについては「おいしい」、「どんなおかずにも合う」等が多くある一方で、「太りやすい」との回答が5%あった。この結果を踏まえ、<u>朝ご飯を米に変えることと健康志向の人に玄米を推進することを目的に、玄米おにぎり等を取り扱う自動販売機を学校や会社に設置する「玄米の可能性、夢玄（無限）米キャンペーン」を提案する。</u> また、実現性の高い作戦として、<u>食習慣を米に変えることを目的に、米の消費推進イベントの開催や県民をあげて米食回数を増やすことを心掛けるための「三重県う～米（まい）！条例」の制定を提案する。</u>	県では、農業の担い手確保・育成のために、三重県農業大学校での実践的な農業教育の実施や、三重県農林水産支援センターと連携した相談窓口の設置、就業・就農フェアの開催等による情報発信に取り組んでいる。また、農業改良普及センターが中心となり、独立して就農する方への営農計画の策定や技術・経営の助言、法人経営者を対象とした就労環境改善に関する研修会の開催等に取り組んでいる。さらに、性別や年齢、障がいの有無、国籍等を問わず、多様な人材が農業分野で活躍できる環境整備に取り組むとともに、少ない人数でも営農が続けられる農業構造へ転換するため、スマート農業技術を活用した農業の省力化や生産性の向上等を進めている。 米の消費量増加の方策としては、県産米の需要拡大を目的に、県産ブランド米「結びの神」の消費者へのPRを実施するとともに、県産米の輸出促進に向けて、収量向上が期待できる品種の選定及び生産技術の実証等に取り組んでいる。 ご提案いただいたキャンペーンは、実施されたアンケートの結果を踏まえた新鮮な発想であり、条例制定のご提案についても、県民全体の意識を高めるよい着眼点であると受け止めている。 いただいたご提案を参考にし、今後も農業の担い手確保や県産米の需要拡大に向けた取組が進むよう、引き続きしっかりと議論を行いたい。	環境生活農林水産常任委員長

学校名 質問項目	質問概要	答弁の概要	答弁者
津高等学校 「第一次産業 に対する高校 生のイメージ を向上させる には」	県内の基幹的農業従事者は過去5年間で28%減少し、深刻な危機に瀕している。校内で意識調査を行ったところ、農業に対するイメージは「稼げない」「汚い」「きつい」「初期費用や技術がない」が強く、将来農業を仕事にしたいと答えた生徒はわずかで、高校生にとって農業は選択肢にすら入っていない。しかし、実際に現場に足を運ぶと全く異なり、高収益性と休日確保を実現するなど、最新技術で効率化し、しっかり稼ぐ事業者がいる。このイメージと実態とのギャップを埋め、若者の参入障壁を下げるため、「高校の探求学習に現場体験や車座トークを組み込み、意識改革を図ること」「今風の弟子制度を整備し、現役の方と技術を学びたい人をマッチングする仕組みを構築すること」「スマート機器の導入支援とインフラ整備」を講じるべきと考える。 <u>県内全高校の総合的な探求の時間を活用し、高校生がスマート農業や高収益現場に直接触れる仕組みを拡げること、弟子制度とマッチングを整備し、第一次産業を志す若者の受入れ体制を強化することについて伺いたい。</u> 【答弁後の意見】 提案したマッチング制度に似た事業があるのに、多くの高校生に届いていない。制度は利用されなければならないので、周知に努めていただきたい。	県では、若者に選ばれる農業の実現に向け、ドローンを活用した農薬散布などのスマート農業の推進、節水型乾田直播などの省力化技術の実証・普及に取り組んでいる。また、教育委員会と農林水産部が連携し、高校生の探求学習を支援する仕組みを構築している。今回のご提案も参考に、関係部局と学校がより一層、連携を深め、スマート農業等に触れる機会が確保・充実されるよう、県議会としてもしっかりと議論していく。 また、農業の担い手確保・育成に向けて、農地、住居の確保や栽培技術の習得等、地域の中心となってサポートしていただく農業者等を「みえの就農サポーターリーダー」として登録し、新規就農希望者に対して、県、市町、関係機関が一体となって、新規就農や就農後の定着をきめ細かくサポートする体制の整備を行っている。令和6年度からはアグリビジネスプラン支援事業にも取り組んでおり、アグリビジネスコンテストの優秀者には農地を貸し付け、プラン実現に向け継続的なサポートを行うなど、農業への新規参入の促進を図っている。いただいたご提案も参考に、こうした取組がさらに拡充し、農業を志す若者の受入れ体制が強化されるよう、県議会としてもしっかりと議論していく。	環境生活農林水産常任委員長